

1. 令和2年度第3回枚方市環境審議会における意見要旨

(1) 審議会における意見等に対する回答

	委員の意見等	回答
1	第2次枚方市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の計画期間について、これまでどおりの10年計画ではなく、パリ協定やSDGsの目標年である2030年にあわせた計画期間とするのが良いのではないかと。また、大阪府地球温暖化対策実行計画においても、計画期間を2030年としているため、同じ目標年度に向けた取り組みを進めていくことができるのではないかと。	第2次枚方市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）については、パリ協定やSDGs、大阪府地球温暖化対策実行計画に合わせ、2030年を目標年とし、8年計画として策定する方向で進めていきたい。

2. 令和2年度第1回枚方市地球温暖化対策実行計画策定部会における意見要旨

(1) 部会における意見等に対する回答

	委員の意見等	回答
1	近年大きな問題となっているプラスチック問題についてもCO2削減に関係があるため、この問題を次期計画に関連づけることも重要である。	市として「プラごみダイエット～ポイ捨てゼロ～」宣言を行っており、第3次枚方市環境基本計画においても位置づけているため、次期計画のみでなくSDGsとの関連づけも行っていきたい。
2	多くの自治体が2030年のCO2削減の目標値を26%と設定しているなかで、どのように枚方市の特徴をだすのか、また、どのように広域的な連携を図っていくのかを検討していく必要がある。	二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言を行っている府内市町村と連携して、取り組みを進めていきたい。

(2) 部会における意見等に対する今後の方向性

	委員の意見等	今後の方向性
1	第3次枚方市環境基本計画では、「街路樹の延長距離」ではなく、「街路樹の緑が健全に育成されているか」という点も指標で管理していく必要があるのではないかと。	今後の計画策定にあたり、「緑の質」の視点を取り入れていきたい。
2	枚方市の里山や農村部もあるため、木質バイオマス等の自然の多様な価値を活かした再生可能エネルギーの活用や、循環型社会の構築につなげることも重要と考える。	今後の計画策定にあたり、本市の多様なバイオマス資源の利活用について、検討していきたい。
3	8年の計画期間で、産業技術の発展や新型コロナウイルス感染拡大による家庭での電気使用量の増加といった様々な状況に応じて、目標値の見直しを行うなど、柔軟な体制が必要である。	国における地球温暖化対策やエネルギー政策や、社会状況等の変化を踏まえ、中間年次を目処に見直しを検討する。